

平成26年度 大津町行政改革懇談会

第2回懇談会会議録

- 日時等 平成27年 3月26日(木) 10:00~11:30
- 場 所 大津町役場4階 大会議室にて
- 出席者 出席委員：明石照久、高濱一昭、瀬川友次、山本セツ、首藤誠治、村山和義、
豊住幸夫、藤原司朗、金田 隆、佐藤典子 以上10名
欠席委員：松永富幸、池松康博 以上 2名
町出席者：家入町長、岩尾総務部長、杉水総務部次長、総合政策課(西光、西岡)
以上 5名

《10:00開始》

1. 家入町長挨拶

皆さん、おはようございます。年度末の大変お忙しい中に、第2回行政改革懇談会を開催したところ、御臨席いただきありがとうございます。

3月の定例議会におきまして、総額約200億円の「平成27年度予算(案)」を承認いただき、執行部としても責任持って執行していきたいと考えているところです。

また、大津町においては、肥後大津駅100周年記念イベントの開催や、駅前楽善線の開通など、駅周辺の開発関連に一応の目途がつきつつありますが、今後の少子高齢化、子育てや介護等に関する問題なども抱えております。

また、下水道をはじめとする公共施設の整備等が、待ったなしで求められている状況でもあり、そのような中において、今後の大津町の方向性を決めていく「計画づくり」が必要と考えております。

町の「振興総合計画」など今後の方向性は、平成27年度からの2年間で、知恵を出し合いながら、しっかり詰めてつくっていく必要があると考えております。

これからも皆さまの御意見を伺いながら進めていきたいので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日は御世話になります。

2. 明石会長挨拶

家入町長の御挨拶にもありましたが、大津町では「駅前の整備」や「新たな道路の開通」など、目に見えるまちづくりが進んできていると感じております。

大津町は人口が増加しており、県内では人口が減少している自治体が多い中、他から羨ましがられる状況にある訳です。

しかし、他の自治体より遅いかもかもしれませんが、「高齢化」は確実に進んでいくと思われま

す。少子高齢化が進む中で、子育て支援や介護等に、これまで以上の行政ニーズが生まれてくることは明らかで、それらに対してどう対応するか、早め早めの対応(行政運営の手腕)がこれからの自治体には求められることになると考えております。

地方分権がここ20年位でかなり進んできており、特に、今の安倍政権になってからは「地方創生」ということで「地方が主役」という流れがはっきり見えてきております。

ただ、国主導から地方主導となる場合、受け皿としての基礎自治体（町役場）の体制整備が求められることとなります。その際、一番大切なのは、「（町として）どのようなまちづくりを進めていくか」ということであります。

確かに、大津町は、色んな資源・財産・可能性などがあり、ポテンシャルが高い自治体です。それらをどのように活かしながら、町民の生活を守り、喜んでいただけるまちづくりに繋げるか、その基本的な方針等を、住民の皆さんの御意見を聞きながら組み立てていき、政策として実施していくことが、行政には期待されているのであります。

委員の皆さまには、これまでも懇談会で意見をいただいているところですが、今後もそのような視点に立って、町民を代表する立場から貴重な御意見を頂ければありがたいと思っております。

本日は、行財政改革に関する新たな大綱に「どういう内容」「どういう項目」を盛り込むかといった素案の御提示をいただけるので、事務局からの説明を聞いた上で、委員の皆さまからの忌憚ない御意見をいただければと思っております。

それでは、よろしくお願いいたします。

3. 議事（進行：明石会長）

1) 新たな「大綱」策定時に盛り込む「内容」「項目」等について

（平成27年3月26日時点）

【西光行革推進係長】

（資料1『新たな「大綱」策定時に盛り込む「内容」「項目」等の提示（素案）』による説明）

《Ⅲ 大津町の「現状」と「課題」》

【瀬川委員】

8頁の「3. 大津町の『行政（内部）』の状況について」の（1）職員の「数」に関する記載のうち、「職員の定員管理」について、「各種事業の在り方や事務の執行方法等を整理した上で、状況に応じて定員適正化計画の見直しを行う」に方針を変えたとありますが、どのような方針で考えているのか聞かせていただきたい。

【杉水次長】

「職員の定員管理」につきましては、平成17年度からの前期「集中改革プラン」においては、定数を順次削減することに重点を置いて進めてきましたが、「職員数は減るが業務量は増える」といった状況の中で、単に職員数を削減するだけでは非常に厳しいということで、平成22年度からの「後期改革プラン」においては、「行政需要の増加等を見ながら、職員の定員を適時見直していく」ことに方針を変えさせていただきました。

また、ここ数年で生じる大量退職者の「補充」も含めて、年度間の調整をさせていただいている状況です。

【瀬川委員】

9頁にある「専門職（スペシャリスト）の育成」に関する考えを聞かせていただきたい。

【杉水次長】

これまで、（土木関係や保育士など一部を除いて）一般職として採用された職員は「総合職」として育成してきましたが、地方分権に伴い、専門的対応を要する案件が増えてきている状況です。

今後は、広く浅く知識を持つだけでは厳しく、深い知識が必要となることもあると思われますので、このような「専門職」が必要になると考えております。

【瀬川委員】

例えば、経済部では国の交付金事業や経済対策事業などを抱えており、その辺りに増員なり専門職の配置なりされると良いと思います。

【豊住委員】

同じ9頁に記載のある「人事異動による職員の配置換え」について、本当にきちんと事務引継が行われているのか、疑問に感じる時がある。1日で完璧に引き継ぐのは難しいでしょうから、お互いしっかりフォローしあって欲しいと思います。

【金田委員】

9頁に「体系だった職員研修」と記載がありますが、その中身はどのように考えていますか。

【杉水次長】

現在、総務課人事秘書係で「職員研修」を計画していますが、職種や経験年数別などに分けながら実施しているところです。

「専門職の育成」や「政策立案能力の向上」など、研修として取り組むべき内容もあると思いますので、今後は、今の研修で本当に良いのかどうかも見直ししながら、時代に応じた職員研修を進めていく必要があると考えております。

【明石会長】

「職員の専門性」の関連で情報提供ですが、他の自治体でも指定管理者制度をはじめ「企業」と協働しないと出来ない仕事が増えていますので、企業の「財務諸表」を見てその内容が分からないと、企業を選ぶことが出来ません。専門性という意味では会計、特に（企業会計の考え方に近い）「公会計」が、いずれ自治体に取り入れられることが決まっておりますし、会計や財務、監査に関する知識を持った職員や、かなり専門性を要する「公共施設マネジメント」に関する知識を有する職員を育てる必要があると思われます。

《「Ⅳ 推進事項について」》

【高濱委員】

「経営」の観点を取り入れることは良いことですが、「経営」という場合、新しいことも取り入れながら税収を増やすということも必要と思います。大津町で「税収の取り方」や「税収を取るためにどうするか」について、どのように考えていますか。

【杉水次長】

「税収を増やすために、政策等を盛り込めないか」という御意見と思いますが、行財政改革大綱

の中ではこれまで、「収納率」という観点で挙げております。税収は日本全国「地方税法」で決まっているので、町で操作するのは難しいですし、固定資産税に関する土地の評価は「地価公示」として出ておまして、町の方で地価の上げ下げは難しいです。

但し、地価は道路などのインフラ整備が進めば上がっていくと思いますので、企業を誘致する環境整備をはじめ、住宅の開発などについて引き続き取り組んでいく必要があると思われれます。

また、大津町にはホテルが多くあり、年間宿泊者数が20万人を超えています。それらの方々が「如何に大津町にお金を落とすか」という仕組みづくりを考えていく必要があると思われれます。商工会の方でアイデアがあれば、御知恵を拝借したく考えております。

【高濱委員】

外国からの客が多くなっているのので、一つのアイデアとして、イオン大津店に「ブランド品」を扱う店を置いたり、夜に外国人が買い物できる環境づくりをしたりなどしてはどうでしょうか。

【山本委員】

最近、アパートがたくさん建っているが、聞くところによると「夜間人口」（大津町に住民票を移していない人）が多いとのこと。その辺をキチンと把握して、住民票を異動させて住民税を納めてもらう施策が必要ではないでしょうか。

【豊住委員】

12頁に「自助」「共助」「公助」の観点という記載があるが、最近、福祉関係で「互助」という言葉が使われている。この「互助」を追加できないか、検討して欲しいと思います。

【明石会長】

その辺りは（事務局に）調べていただき、言葉の整理をお願いします。

【佐藤委員】

13頁に「今の時代にマッチした『新規項目』の追加」とありますが、大津町にも観光地になりうる場所がたくさんあるので、「からいも君」や、ちょっと有名な方を「観光大使」として、もっと人を呼べたら良いかと思われれます。

【杉水次長】

今回は「行財政改革」に関する協議をしておりますので、今の御意見は、観光振興に取り組む⇒観光客を増やす⇒大津町にお金を落としてもらうといった、「税収以外の歳入確保」といった観点から必要ではないかと考えています。

【金田委員】

「改革の柱」ということで3つ並べてありますが、基本的に正しい認識だろうと思われれます。ただ、「具体的にどうしていくのか」が、例えば「組織内の活性化」とあるが、具体的にどうしたら活性化していくのか。私は色々な研修会に参加しますが、大津町の職員でよく自主的に参加されている人を見かけます。立派な姿勢だなと思うと同時に、そのような職員を増やすことが、まちづくりを担っていく本隊としての意識を持ってもらうような研修が必要と思われれます。

また、「協働」には学問的規定はあるが、中々浸透していないと感じます。町民が主体的にまちづくりをやっていくサポートを、行政がどのようにしていくのかが求められていると思われれます。

《全体を通して》

【瀬川委員】

12頁にある「公共施設等のマネジメント」中、民間委託等の検討（指定管理者制度の見直し・検討含む）とありますが、3頁の【別表2】では、「指定管理者制度導入施設に係るモニタリング体制の整備」が達成せずとなっています。指定管理者制度の現状と今後等について教えてください。

【杉水次長】

指定管理者につきましては、町が抱える公共施設として、老人福祉センターやシルバー人材センターが入っているところなどがございます。また、大きなものとして「岩戸の里」などが挙げられます。現状としましては、福祉施設等は概ねきちんとしてできていますが、「岩戸の里」については、今後どうするべきか検討しているところです。

もう一つは、民間委託等の検討の中で「地区公民館」関係が少し遅れていると感じております。地区の集会所的な利用であれば、地区の方にお問い合わせ出来ないかと進めているのですが、1つ、護川地区公民館については、地区の方にお問い合わせすることができました。

今後は、町で管理するもの、地元で管理するもの等区別しながら、「公共施設等管理計画」の方針に基づきながら進めていきたいと考えています。

2) 策定までの「スケジュール感」について

【西光行革推進係長】

（資料2『策定に至るまでのスケジュール感（案）』による説明）

※質疑等特になし

3) その他【各委員によるコメント（任期を終えるにあたり）ほか】

【首藤委員】

第3次行財政改革大綱の中では、大まかに言えば縮小（組織も小さく、人も少なく）するという流れでやってきましたが、220人近くいた職員が、一時期198人まで減っており、少ない人数の中職員の皆さま大変だったろうなと感じております。

また、ベテラン職員の大量退職があり、職員の負担増が考えられる中、適正な人材配置をされるようなので少し安心しております。

組織と人材はとても大事なことで、「機構改革」や「職員研修」も含め、若い職員の意見を取り入れていただき、各課で十分話し合いの出来る環境にして欲しいと思います。

最後に、「公共施設の老朽化」が大変気になっております。教育施設も含めて、この辺を確実にマネジメントしていただければと思っております。

【豊住委員】

厳しい財政事情の中、新たな行財政改革大綱（素案）を纏められ、御苦労様でした。これからも

厳しい状況が続くと思いますが、よろしく願いいたします。

【佐藤委員】

初めて参加させていただきました。しゃべらずに手話するのは得意なのですが、人前で話すのは苦手でした。しかし、発言しなければと思い、頑張って発言してみました。このような機会をいただき、ありがとうございました。

【高濱委員】

私は農業と商業、両方に取り組んでいますが、今、本当に時代が変わろうとしています。職員の皆さまも、お忙しい中とは思いますが、しっかり研修に身を置いていただきながら、町のリーダーになっていただきたいと思います。

農業もここ10年で変わると思います。また、エネルギー政策も変わり、車の燃料についてもガソリンから電気、水素へと変わろうとしていますので、行政マンとしてしっかり勉強していただきたいと思います。

【瀬川委員】

前任者の任期を引き継ぎ、2回参加させていただきました。まだ無知なところがあり皆さまには大変御迷惑をおかけしたかと思えます。今後は、「活力のある農村」をつくりながら、大津町に少しでも貢献できればと思います。併せて、それに向けての町の御支援をお願いしたいと思えます。

【山本委員】

私は、女性の会からこのような機会をいただき、色んな勉強をさせていただきました。法人町民税が26億円から3億円に減るなど、とても驚きました。先ほどコメントしました「町民の把握」についても御検討よろしく願いいたします。ありがとうございました。

【村山委員】

明日の観光大津を創る会より、途中から引き継いで参加させていただきました。私自身も、勉強させていただくことの方が多く、中々発言できる状況でなく皆さまに御迷惑をおかけしたかと思えます。ただ、エコやエネルギー改革の進む世の中で、それらに追随した形での対応が町の行政執行の中でも見ることができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。

【金田委員】

10年後には、65歳以上の方が今より2,500人程度増えてくるようで、そうになると住民税は減るし、国民健康保険税はものすごく高くなるだろうと予想されます。

男女共同参画関係で久留米市に研修に行った際、久留米市では各担当課が目標を設定しており、達成できない場合は直接市長に報告する必要があるそうで、それが嫌で、各担当課は審議会に女性を入れたりしているそうです。

このように、直接担当する権限を持った、例えば副町長などをきちんと置いて進捗管理をしていかないと進まないのではないかと感じています。

【藤原委員】

この会議には、職員を代表して参加させていただきました。皆さんの期待度の大きさを再認識しております。今後とも住民の満足度の向上実現に向けて、職員のスキルアップを図りながら、皆さんの期待に応えられるような業務ができればと思っております。

一時期は職員数が200人を切る大変厳しい状況でした。今は少し増えてきていますが、住民からの要望も多様化してきており、それらにも対応していきながら、より良い町になるように努めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

【岩尾総務部長】

委員の皆さまには大変お世話になりました。各委員さんから頂戴した御意見につきましては、今後の計画に活かしながら、住民の方々の満足度を高める、質の高い行政運営に努めてまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

【家入町長】

総務部長もあと数日で退職を迎えます。課題もたくさんあるので、先程豊住委員がおっしゃっていた「事務引継」をしっかりとお願いしたいと思っております。

本日は、皆さまから色々な御意見をいただきました。職員の意識改革もまだ足りないかもしれません。来年度も10人以上の幹部が辞めてしまう状況にありますが、次の時代の優秀な職員が出てくるという期待を持って人事をさせていただきます。

法人住民税等も厳しい状況ですが、町内中小企業の中には投資を増やしている企業もあるようです。アベノミクスの効果が少しはあるのかもしれませんが、住民の暮らしはこれからも厳しくなると思っております。

大幅な税收増を見込めない中、健康を第一に考え、「予防」に取り組んでいければと思っております。5年、10年の積み重ねが、そのうち生きてくると思っておりますので、それを見込んでの対策・予防関係に力を入れていきたいと思っております。

住民の皆さんが自分たちのまちづくりを自覚いただき、その目線にあった行政運営が必要になってくると思っております。

昔は「役場が言うこと」「国が言うこと」で間違いなしと言われていましたが、今後は、先程の「互助」の精神でこの町を守り、育てていきたいと考えておりますので、今後とも忌憚のない意見を役場に届けていただければと思っております。

本日は本当にありがとうございました。

《11：30終了》